尺側手関節痛の鑑別疾患と治療

キッコーマン総合病院　整形外科　田中利和

尺側手関節痛の発生頻度は、手外科外来の5％程度とそれほど多いものではありません。Palmerの分類に始まる三角繊維複合体（TFCC）損傷に注目が始まると、中村らの精力的な発生機序の考察から治療法に対する多数例の経験により、診断ができれば根治は可能かもしれないな疾患群が出現したために、尺側手関節痛に関心がもたれるようになりました。しかし、尺側手関節にはたくさんの結合組織があり、これら一つ一つを鑑別してゆかねばなりません。画像診断はあくまでも、補助診断です。疾患特異性のある場所への0.1㏄のキシロカインテスト、そして、様々な誘発テストを行い、疾患を絞り込んでいきます。すでに診断の時点から、治療は始まっています。